# 1. 学校マネジメントの深化 【観点||】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

取組実践校:佐伯市立明治小学校(児童数:173名)

「学校の教育目標の達成に向けた,短期の検証・改善による授業改善の工夫」

**ACTION** 

〇年間を通じたPDCAサイクルを土台に小さいサイクルと個人・相互チェックの仕組みを構築 ○個々が取り組む授業改善の内容を具体化・焦点化

#### ①R1·4月当初

**PLAN** 

DO

DO

DO

・学校の教育目標と目指す授業像を共有

「新大分スタンダード」(めあて・課題・ひとり学び・交流・まと め・振り返り)徹底を確認

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用 DO 「授業改善ルーブリック」の結果を集計・交流

#### ②1学期末の検証・改善

口全員で目指す力と授業のつながりを再確認 CHECK

□児童の変容・現状と取組の効果・課題、解決方途を協議 ※児童の変容や取組状況を見える化し、学校内外で共有

ACTION ■「学びの主体性」を高めるために、取組を授業の「課題の | 在り方」に焦点化

◇個人・相互で调・月ごとに取組チェックできるツールの使用

・「授業改善ルーブリック」の項目を更新

◇授業で使った「課題」を職員室内に掲示し、共有・交流

#### ③2学期末の検証・改善

口授業改善の進展と児童の変容・現状を重ねて分析 CHECK

□次の課題や解決に向けた取組の焦点について協議 ※児童の変容や取組状況を見える化し、学校内外で共有

ACTION → 「考え、伝え合う」姿を高めるために、取組を「板書の構 ■ 造化 |に焦点化

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用

・「授業改善ルーブリック」の項目を再度更新

◇研修等で板書写真を交流

## CHECK

#### 43学期の検証・改善

・3学期取組と合わせ、年間取組の効果と課題を児童の 変容・現状を基に分析

### ⑤次年度に目指す姿・解決する課題,授業改善の重点等を 協議

R2の目指す姿は①を継承し、「思考・判断・表現(書くこと)」 の力を高める方向へ

- 国語科と生活科・総合的な学習の時間の関連を注視
- ・単元配列表の活用,「書いて表現すること」を重視
  - ・次年度向けプランに反映

#### PLAN 学校の教育目標・重点目標との連動 現状把握・問題点の明確化 ・授業改善テーマの設定 ・授業改善の重点・取組内容の設定 取組指標の設定 検証指標の設定 授業改善計画(校内研究計画)の立案

## ACTION 5

#### 成果と課題の分析

- 改善方針・計画の立案
- 組織の役割の見直し
- 指導体制の見直し
- ・学力向上プランへの反映
- 教育課程の改善

#### 学校評価との連動

授業改善を推進する組織づくり

教員評価システムとの

### 取組内容・取組指標に基づく実践

児童生徒による授業評価

研究授業・研究協議・互見授業

DO

- 管理職等の授業観察
- 学年部会·教科部会

## CHECK

取組指標・検証指標に基づく評価

- 各教員の取組状況の把握
- 児童生徒の変容の把握
  - 単元末テスト・各種学力調査
  - ・学校評価・児童生徒による授業評価
- 目標管理シート

